

令和 6 年 9 月 4 日

浜田市議会議長 様

議員名 柳楽 真智子

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ① 岡山県久米南町役場
- ② 岡山県総社市役所

2. 視察事項

- ① AI 活用の乗り合いタクシー、高齢者の移動手段確保について
- ② ひきこもり支援事業について

3. 視察の目的（市政との関連など）

浜田市では交通手段の確保策を複数実施しているが、乗車率の課題や市民の使い易さという点では様々な課題があることから、AI を活用した移動手段の確保による利便性向上に繋げるため。

また、ひきこもり支援については実態の把握やアプローチ方法を参考にし、地域全体で支える仕組みの参考とするため。

4. 期間（移動日を含む）

令和 6 年 8 月 20 日（火） ～ 令和 6 年 8 月 21 日（水）

5. 経費 21,592 円

経費内訳 資料代 2,420 円、 旅費 12,572 円、 宿泊費 6,600 円)

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

久米南町では、高齢化率が 45%と高いことから、乗車の直前まで予約が可能なデマンド交通「カッピーのりあい号」の運行を行い、より使い勝手の良い交通手段となっており、利用者から喜ばれていることから、浜田市でも取組めるよう提案する。

総社市では、福祉王国プログラムを策定され、その中の引きこもり支援部会では、ひきこもりからの社会参加 200 人の達成を目標に取組を進めている。実態把握の手法や体制整備について浜田市での取組の参考にしたい。



7. 視察内容

【岡山県久米南町】

- カッピーのりあい号の運行前は民間路線バスもタクシー事業者も無く、1 時間に一本の JR（汽車）とスクールバス兼コミュニティバスのみだった。
- コミュニティバスの場合最初に乗車した人は下車まで 1 時間以上かかることがあることや、100m 先のバス停でも高低差があり歩けない高齢者もいるの課題があることから、コミュニティバス形態をやめてデマンド交通の「カッピーのりあい号」を、当初は事前予約制・定時運航で運航開始した。
- ドアツードア型ではあるが、前日予約や往路・復路に時間帯の制約があることや、5 ゾーンに分割されていて乗換が必要な箇所もあるなど利用しにくかった。
- AI 予約システムを活用したフルデマンド交通に転向したことで、時刻の定めがなく町内のどこでも行けるようになり、乗車の直前まで予約が可能になった。
- Web アプリの導入でネット予約ができるようになった。
- 導入経費の心配があったが、トヨタモビリティ基金（TMF）の助成を受け、AI 配車システム（未来シェア「SAVS」）を導入して 2020 年 1 月から実施。
- システム利用料は年間約 2 0 0 万円（タクシーのタブレットレンタル料を含む）。
- AI 予約配車システムの導入により、特定時間帯の利用集中が緩和され、車両台数を 6 台から 5 台に削減し経費の削減に繋がった。また、1 利用当たりの経費が大幅に改善できた。
- 貨客混載にも取り組んでいるが、こちらは利用が少ない。
- 行きたい買い物先まで、自分一人で行けるようになったという利用者が 66.4%、
外出頻度が増えたという利用者が 39.8%。
その他の余暇活動などの目的利用が 4.5 倍に増加した。
- タクシー事業者への委託料は 4,000 万円～4,200 万円。
5 台の内 4 台はカッピー専用車両で町が購入したもの。
- 1 回の利用料は 3 0 0 円だが、6 5 歳以上で運転免許証を返納した人に交付される「おかやま愛カード」を持っている人は、半額の 150 円で利用できる。

所感

AI を活用することで利用者の利便性は格段に向上し、運航の効率化が実現されている。久米南町においてはトヨタモビリティ基金（TMF）を活用することで、導入経費がかからなかったことは財政的に大きい。浜田市でも空のバスが走っている光景を目にすることから、導入について研究・検討する必要性を感じた。

【岡山県総社市】

- 福祉王国プログラムを策定し、ひきこもりからの社会参加 200 人を目標に取り組を進めている。
- 検討の契機は、社会福祉協議会において、障がい、生活困窮、権利擁護に関する相談を推進する中で、「ひきこもり」と思われる人の存在を確認。実態把握と専門的支援の必要性を課題ととらえた。
- 平成 27 年 8 月にひきこもり支援等検討委員会を設置。市の関係部署や社会福祉協議会のほか、ハローワーク、医師会、民生児童委員協議会等の地域の関係者で構成され、ひきこもりの定義や理念を明確化し、ひきこもり支援施策を検討・創設した。

○平成 28 年 1～9 月に、市内 17 地区で懇談会と実態把握を行い、市内には少なくとも 200 人ほどのひきこもりの人がいるとの結果が出た。

○ひきこもり予防（義務教育の段階での取組）

派遣登校支援員による長期欠席の児童・生徒の状況把握と分析・整理を行っている。また、中学校卒業後も必要に応じて相談できる支援体制をつくるため、不登校状態にある生徒・保護者に対して、卒業前に四者面談を実施している。

○ひきこもり支援（中学卒業以降の社会からの孤立状態への支援）

総社市では「ひきこもり」を地域社会の課題としてとらえ、平成 29 年度から市の独自事業として、社会福祉協議会に委託して支援を開始した。

➤H29.4 ①ひきこもり支援センター「ワンタッチ」開設

・専門の相談員（社会福祉士）による訪問・電話・メールでの相談支援

実相談者数 474 人

延べ相談件数 28,333 人

社会参加実人数 88 人

・センターの体制

センター長 1 名

相談員 2 名（社会福祉士）

事務補助 1 名

➤H30.2 ②常設居場所「ほっとタッチ」開設

・市役所のそばの一軒家を借り上げた常設の居場所において、専門職、ひきこもりサポーターが寄り添い、社会参加に向けて少しずつ支援

・「ひきこもりサポーター」の養成

市民を対象とした「ひきこもりサポーター」の養成講座を実施

3 回の研修の後、希望者はサポーター登録してもらい、居場所等での支援に協力してもらう。（R6 年 6 月末の登録者数 96 人）

➤H30.8 ③ひきこもり家族会「ほっとタッチの会」設立

・ひきこもり当事者が家族にいる人たちを対象とした組織を立ち上げ、家族観で交流を図り、ひきこもり家族の孤立を防ぐ

➤R 3.4 ④2 か所目の常設居場所「ほっとタッチぽえむ」開設

（地域的にほっとタッチへ行きにくい人のために開設された）

・令和 5 年度の事業費は、1,592 万円

（支援センター人件費、サポーター養成、居場所設置等）

このうち 719 万円を国庫補助（ひきこもり対策推進事業）による手当を見込んでいる。

所感

総社市では、全国屈指の福祉文化先駆都市に実現を目指し「だれもが安心して豊かに暮らせるまちづくり」の実現に取り組んでいる。今まで「ひきこもり」という課題は最も難しい、閉塞した福祉課題のひとつであったが、ひきこもり支援を地域福祉の課題と捉え、ひきこもりサポーター養成講座を行うことで、ひきこもりに対する理解を深めるとともに、当事者とその家族の支え手や居場所づくり等のサポート体制の構築に取り組まれている。この取組を行う中で、ひきこもりを表に出しやすくなってきていると感じておられることは、大切な成果だと感じた。浜田市においても、ひきこもりに対する理解が深まることで、早期発見や社会参加への支援に繋がると考えることから、サポーターの養成を含め重層的な支援体制の構築が必要と感じた。